

# リンゴ褐斑病の二次感染期に有効な防除薬剤

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－リンゴ－病害虫防除
- 2 担当者名 日下部翔平、藤田剛輝、小松健太郎
- 3 要旨

近年リンゴ褐斑病の被害が問題となっており、本病に対して有効な薬剤が限られていることから、効果の高い薬剤が求められている。そこで、7月以降の二次感染期におけるDMI剤のテブコナゾール水和剤（商品名：オンリーワンフロアブル）、SDHI剤のピラジフルミド水和剤（商品名：パレード15フロアブル）について調査した結果、防除効果が高いことが明らかとなった。

- (1) 2022年に「ふじ」を対象として、テブコナゾール水和剤、ピラジフルミド水和剤をそれぞれ6月～8月にかけて散布し、新梢葉での発病状況を調査した結果、防除価はテブコナゾール水和剤で98.4、ピラジフルミド水和剤で99.2となり高い防除効果を示した（表1）。
- (2) 2023年に「ふじ」を対象として、ピラジフルミド水和剤及び対照薬剤としてSDHI剤のピラクロストロビン・ボスカリド水和剤、ペンチオピラド水和剤を8月に散布し、新梢葉での発病状況を調査した結果、ピラジフルミド水和剤の防除価は100となり、ペンチオピラド水和剤よりやや高く、ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤と同等の高い防除効果を示した（表2）。
- (3) DMI剤、SDHI剤ともに耐性菌発達リスクが高いため、年間の使用回数を制限する。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4～5年度
- (2) 研究課題名  
令和4年度:果樹病害虫の防除法改善  
令和5年度:安全で効率的な新農薬・新資材の実用化

表1 リンゴ褐斑病の二次感染期における防除効果（2022年）

供試薬剤	希釈倍数	新梢葉調査 (8/17)			防除価
		調査葉数	発病葉数	発病葉率 (%)	
テブコナゾール水和剤	2,000倍	863	4	0.5	98.4
ピラジフルミド水和剤	2,000倍	963	2	0.2	99.2
無処理		768	240	31.2	

※各薬剤は6/13～8/2に処理した。

調査葉数と発病葉率は落葉数を含む。防除価は発病葉率から算出した。

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 令和5年版福島県農作物病害虫防除指針
- (2) 長野県果樹試験場, リンゴ褐斑病防除にオンリーワンフロアブルが有効である, 2022

表2 リンゴ褐斑病の二次感染期における防除効果（2023年）

供試薬剤	希釈倍数	新梢葉調査 (10/2)			防除価
		調査葉数	発病葉数	発病葉率 (%)	
ピラジフルミド水和剤	2,000倍	596	0	0	100
ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	2,000倍	611	0	0	100
ペンチオピラド水和剤	2,000倍	558	6	1.1	92.4
無処理		625	88	14.1	

※各薬剤は8/8、8/17に処理した。

調査葉数と発病葉率は落葉数を含む。防除価は発病葉率から算出した。